

糖尿病の薬（病院の処方薬）



- ・内服薬で済むタイプとインスリン注射が必要なタイプがある
- ・糖尿病薬より生活習慣の改善が有効

- スルホニル尿素薬
→ 膵臓でのインスリン分泌を促す
- ビグアナイド薬 → 肝臓が糖をつくるのを抑える
- α -グルコシダーゼ阻害薬
→ 小腸での糖の消化・吸収を遅らせる
- SGLT2阻害薬 → 尿中に糖を排出しやすくする
- 速効型インスリン分泌促進薬
→ インスリン分泌のスピードを速める
- チアゾリジン薬
→ 脂肪組織や筋肉などにはたらきかけ、インスリンの効果を高める
- DPP-4阻害薬
→ インスリンの分解を抑える

糖尿病の薬も血圧の薬と背景がよく似ています。開発の歴史も、数多くの評価が行われてきたという点でもほぼ同じ道をたどってきました。評価の結果、期待外れの結論になった調査が大変多かった点も同じです。

糖尿病薬には現在、7種類の薬が出ています。糖尿病が強く疑われる人は日本にも約1000万人いると言われ、製薬企業にとっては大きな市場であることから数々の新薬が発売されてきました。同時に、効果と副作用を検証するための大規模調査も行われていますが、結果はさんざんです。深刻な副作用がたくさん発見されているのです。

たとえばチアゾリジン薬の「ロシグリタゾン（日本では未発売）」という商品は、42にもものぼる追跡調査を検証したところ、服用すると心筋梗塞になる割合が43%、心臓病・脳卒中での死亡が64%増えるという結果がわかりました。

他の追跡調査からも、糖尿病薬を飲んで総死亡率が減ったとのデータは得られず、飲んでも飲まなくても寿命に差はないことが明らかにされています。

2009年に承認され、それまでの治療薬と異なる作用で血糖値を下げるとして期待を集めているDPP-4阻害薬も、私は信用していません。